

令和 8 年度 学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	46	学校名	茨城県立土浦第三高等学校						課程	全日制課程			学校長名			渡邊 聡		
教頭名	赤津 克齊												事務（室）長名			川連 義啓		
教職員数	教諭	47	養護教諭	1	常勤講師	2	非常勤講師	2	実習教諭、実習講師、実習助手			3	事務職員	3	技術職員等	4	計	65
生徒数	小学科			1 年		2 年		3 年		4 年		合計		合計 クラス数				
				男	女	男	女	男	女	男	女	男	女					
	普通科			71	49	66	52	54	65			191	166	9				
	商業に関する学科			54	66							54	66	3				
	商業科					11	28	9	31			20	59	2				
	会計ビジネス科					20	20	15	25			35	45	2				
	情報処理科					28	12	21	18			49	30	2				

2 目指す学校像

生徒一人ひとりの個性や能力の伸長を図ると共に、「生きる力」や「豊かな心」を育み、社会に貢献できる人材を育成する学校。

3 三つの方針（スクール・ポリシー）

育成を目指す資質・能力に関する方針 (グラデュエーション・ポリシー)	○生徒一人ひとりの個性や能力が発揮され、未来を主体的に切り拓く力や豊かな人間性を身に付けた社会に貢献できる人材。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー)	○自らの興味・関心や進路希望に応じて生徒が学びを選択し、知識・技能はもちろん、学ぶ意欲や主体的に判断・行動してよりよく問題を解決する資質・能力などの確かな学力を身に付け、地域社会を輝かせる心身共に健全な生徒の育成。 ※ドサン・プライド (Dream / Opinion / Seek / Active learner / Never give up)
入学者の受入れに関する方針 (アドミッション・ポリシー)	○目標や向上心を持って学習に励むとともに、部活動等や生徒会活動、学校行事などにも積極的に取り組み、充実した高校生活を送る意欲のある生徒。

4 現状分析と課題 (数量的な分析を含む。)

項目	現状分析	課題
学習指導	相応の基礎学力と理解力を備えているが、潜在的な能力を十分発揮できずにいる生徒も少なくない。この背景として、学習への取組姿勢や向上心に関する個人差、学業と部活動との両立を図ることに課題を抱えた生徒等の家庭学習の未定着などが考えられる。	育成すべき資質・能力を明確にした上で、その効果的な実現に向けた授業実践と観点別評価等の学習評価の手法を研究すると共に、家庭学習を習慣化する手立てを講じていく必要がある。
進路指導	進路選択を主体的に進めていくために必要な自己理解の不足が見られる。希望する進路の実現に向け、3年間を見通した進路指導が重要である。また、教育課程が学科ごとに異なることから、進路希望別や学科別等個別的に指導を展開していく必要があり、教職員に負担が生じている。	様々な機会を通して自己理解の深化を図ると共に、多様な進路希望に対応するための学力向上及び課外等への組織的取組を進めていく必要がある。
生徒支援	生徒には、自発的に挨拶したり周囲への気配りなどが日常的に行われたりする雰囲気や醸成されている。服装頭髪等の指導を定期的を実施することなどにより、ルールを遵守する意識が定着しており、問題行動や特別指導は少ない。保護者の理解と協力が得られており、家庭と連携して生徒への指導がなされている。	校外での生活や交通安全などに対する規範、SNS等に起因する問題などに関する意識の高揚を継続していくことが求められる。他人の痛みの分かる生徒の育成にも力を入れていきたい。
特別活動	文化祭やクラスマッチなどの学校行事、ホームルーム活動などが積極的かつ主体的に実施されている。募金活動やマナーアップ運動など、生徒会活動も積極的に行われている。また、部活動においても自主的に活動が展開され、関東大会および全国大会出場等の実績を残している。	各種委員会活動の活性化、生徒に自主的・自発的な部活動の運営を、より一層図っていく必要がある。また、時代に応じた学校行事の取り組みを模索していく必要がある。
健康・安全	生徒の約6割が自転車通学であることから、登下校時の交通安全や不審者対応等が不可欠であり、交通安全指導などを進めると同時に、所轄の警察署との連携を図っている。また、心に課題を抱えて	地域の関係機関と連携し、生徒の安全確保に努めていく必要がある。また、個に応じた支援のあり方について、SC等との連携を深めると共に、

別紙様式 1 (高)

	いたり、特別な支援を必要とする生徒もいたりするため、その対応が求められている。	教職員研修等を進めていく必要がある。
施設・設備	継続的に校内の危険個所の修繕・管理に努めている。設備については、生徒の学習環境を向上させようと、電子黒板やW i F iなどのI C Tの円滑な利活用を促進する。	最新施設の積極的な有効活用を進めていくと共に、探究活動等に資する生徒によるI C Tの効果的な利活用を進めていく必要がある。
広報活動	部活動や進路実績、施設・設備、専門学科の学習内容を含む教育内容等について、地域の中学校等へ積極的にP R活動を行うと共に、ホームページを活用した最新情報の提供に努めている。また、生徒が自主的に取り組む探究活動等を地元新聞社や地域の広報誌などに投稿しP Rを行う。	課外活動、学校行事に主体的に取り組む生徒を増加させる。常に最新情報をホームページに掲載できるように、組織的に取り組む必要がある。また、地域社会からの信頼をさらに厚くするための取組の充実が求められる。
働き方改革	勤務時間の把握や定時退勤日の設定などを実施しているが、校務分掌業務、課外指導、部活動指導などから、勤務時間外在校時間が長い職員も少なくない。	業務内容の見直しによる業務量の軽量化、校務分掌の平滑化、課外指導等の計画的な実施等、新しい体制の確立等を進めていく必要がある。

5 中期的目標

- 1 確かな学力の育成を図り、自らの力で未来を切り拓く知性や教養など、活用できる能力を養う。
- 2 文武両道を推進すると共に、様々な体験や学習活動を通し、心身ともに健全で豊かな人間性を養う。
- 3 キャリア教育を充実し、望ましい職業観や勤労観、社会性を養い、将来の夢や希望の実現を目指す。
- 4 普通科と商業関係学科の併設校として、地域の期待に応え信頼される学校を目指す。
- 5 働き方改革を推進するとともに、教職員の心理的安全性が担保され、心身ともに健康的で働きやすい職場環境の構築を目指す。
- 6 授業改善推進プロジェクト委員会を中心に、外部の教育的資源を活用し、生徒自ら課題を発見・解決できる学力を育成する。

6 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
確かな学力の育成を図り、自らの力で未来を切り拓く知性や教養など、活用できる能力を養う。	① 確かな学力の定着を図り、国公立大学や難関私立大学への進学実績をさらに伸ばす。 ② 学習意欲の高揚に努め、自発的な学習の習慣化や家庭学習の確立を図る。 ③ 個別面談及び保護者面談を充実し、個々の学校生活の目的や進路希望を明確にすることで、自己実現に向けて主体的に取り組む態度を育成する。 ④ 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に努める。 ⑤ 希望する進路の実現に向けた課外活動の充実を図る。 ⑥ 生徒個々の興味や関心、適性等に応じた進級時の適切なコースないし学科の選択を実施する。 ⑦ 商業関係学科においては、専門科目の学習内容の充実を図り、資格取得の実績向上と進路の実現を目指す。
文武両道を推進すると共に、様々な体験や学習活動を通し、心身ともに健全で豊かな人間性を養う。	① 特別活動等の充実を図り、活力ある学校生活の創造に努めると共に、調和のとれた生徒を育成する。 ② 生徒の規範意識を向上させ、本校生としての自覚とマナーを心得た生徒を育成する。 ③ 道徳教育を推進し、人間としての生き方やあり方に関する指導の充実により、豊かな人間性・社会性を身に付けさせる。 ④ 生徒会活動や各種委員会活動の活性化を図ると共に、様々な学校行事を通じて生徒の学校生活の充実を図る。 ⑤ 校外活動やボランティア活動への積極的参加を推進し、社会において必要な実践力を育成する。 ⑥ 文武両道を推進し、知育、徳育、体育のバランスのとれた学校運営を実践する。
キャリア教育を充実し、望ましい職業観や勤労観、社会性を養い、将来の夢や希望の実現を目指す。	① 生徒個々の自己理解と職業に対する意識の高揚を図り、希望や適性に応じた進路実現のための的確な支援を行う。 ② 生徒の主体的な進路選択及び希望する進路実現を支援するため、進路相談・学習相談・就業体験の充実を図る。 ③ 就職試験や面接試験対策等の充実を図り、具体的かつ実践的な能力の向上を図る。

別紙様式 1 (高)

	④ 適切な進路指導を進めていくため、本校の現状分析や教員の研修の機会を充実させる。 ⑤ 探究的な学習を通して課題発見・解決能力の育成を図り、変化の激しいこれからの社会を生き抜く力を育成する。
普通科と商業関係学科の併設校として、地域の期待に応え信頼される学校を目指す。	① 各学科の目標の実現に向けた授業内容の充実を図り、関係機関との連携にも努める。 ② 学校のさらなる発展に向け、保護者、学校評議員、地域住民等からの情報や意見を聴取して学校運営に資すると共に、地域の関係機関との連携を強化する。 ③ 中学校への訪問を実施し、本校の理解の促進を図る。 ④ 保護者や地域住民との情報交換を積極的に行い、相互の理解と協力体制の確立を図る。
働き方改革を推進し、心身ともに健康的で働きやすい職場環境の構築を目指す。	① 業務内容の見直しと業務量の軽量化を図り、勤務時間外在校時間の短縮を図る。 ② 休暇を取得しやすい職場環境の醸成に努める。 ③ 校務に I C T を積極的に取り入れ、電子化による円滑な業務の推進を図る。
授業改善推進プロジェクト委員会を中心に、外部の教育的資源を活用し、生徒自ら課題を発見・解決できる学力を育成する。	① 「わかる授業」を展開し、基礎基本の定着から、発展・応用に対応できる力を身に付ける「できる授業」へ展開し、授業満足度 (KPI) を 80%以上とする。 ② 他者との対話や協働などをとおして、新たな技法、価値の創造、多様性の尊重等を身に付け、課題を主体的に解決できる能力を育成する。